

第68期 中間株主通信

2009年6月1日～2009年11月30日



**TOYO TANSO**  
Inspiration for Innovation



# TOYO TANSO

Inspiration for Innovation

## contents

ごあいさつ	2
特集 ～TOPインタビュー～	3
トピックス	6
シリーズ ～高性能カーボンはここに!～	7
財務ハイライト	8
営業の概況	9
連結財務諸表	11
地域別の概況	13
会社情報・株式情報	14

## 環境・エネルギーおよびグローバル指向を深める

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第68期中間株主通信をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当第2四半期累計期間の世界経済は、各国の経済政策の効果もあり、アジア諸国を中心に景気は一部持ち直しの動きが見られましたが、世界的不況の影響を引きずり、引き続き低調に推移いたしました。国内経済は輸出・生産の下げ止まりや在庫調整の進展などで最悪期は脱しつつありますが、依然として厳しい状況が続いています。このような中、当企業グループといたしましては、成長が見込まれる環境・エネルギー関連分野や、内需拡大が進む中国等の新興国での需要の掘り起こしと取り込みに全力を注ぐとともに、コスト・経費の削減や投資の圧縮等の自助努力を推進いたしました。その結果、当第2四半期累計期間の売上、利益はともに前年同期比減となったものの、第2四半期は第1四半期に比べ増収となり、緩やかながら回復基調となりました。

今後につきましては、足もとの景気は国内外とも回復の動きが見られるものの、設備投資や個人消費に裏打ちされた本格回復には至っておらず、雇用情勢、原油価格、為替等の不安定要因や経済政策効果の息切れ懸念も含めて、依然不透明な状況が続くと見られます。一方、当企業グループの事業環境は、

現在注力している環境・エネルギーならびにエレクトロニクス分野を中心に需要は上向いており、詫間新工場をはじめ、中国、ドイツ子会社での新工場立ち上げなど、今後の本格的な景気回復に向けた準備をグローバルベースで着々と進めてまいります。また、太陽電池、原子力、LEDなど拡大が期待される用途における受注活動を強力に推進するとともに、産官学連携活動の推進などを含めた新製品・新規用途の開発促進に努め、業績向上に注力していく所存でありますので、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年2月



代表取締役会長

近藤 純子

代表取締役社長

近藤 尚孝

## 創業以来のパイオニア精神を胸に、 全社一丸となって時代の一步先へとチャレンジしていきます。

### 社員全員で「熱意のある会社」に

▼まず、社長就任にあたって、どのような会社を目指すのかを聞かせて下さい。

私の目標は、前会長、前社長の意向を受け継ぎながら、当社を社員全員で「熱意のある会社」にしたいということです。これを実現するにあたって、「どこにもないモノをつくる」「世界一の品質を極める」「社員全員が高いモチベーションを持つ」という3つの方針を掲げ、折にふれ、社員に伝えています。

### 教育を通じて、真のプロ集団に

▼そのための具体的な取組みなどを教えてください。

最も大事なものは、社員一人ひとりが、自主性と向上心をもって仕事をする事です。その土台として、相手の立場を尊重しながら、自由闊達に意見を交換できる社風が必要です。そのために、特に力を入れているのは社員教育です。私が社長に就任した後、社内の教育システムを各部署の若手社員を含めたグループがカリキュラムを考え、実施するものへと変えました。社員全員が、自ら知恵を出し合い、創意工夫した教育を通じて、真のプロ集団になってもらいたいと考えています。





## 海外拠点と一体となって、 市場のあらゆるニーズに応える

▼次に、グローバル展開の進捗について聞かせて下さい。

昨年、東南アジア初の販売拠点として、タイの現地法人での営業を開始しました。また、ヨーロッパでも、半導体分野や医療向けへの展開をより強化するため、ドイツの子会社である GTD GRAPHIT TECHNOLOGIE GmbHの工場を移転・拡充し、新たに高純度化設備も導入中です。グローバルに見れば、当社は、アメリカ・ヨーロッパ・アジアの8つの国・地域に販売・製造の拠点を設置しています。今後も、これらの海外拠点と一体となって、それぞれの国・地域の市場のあらゆるニーズをくみとり、それに応えられる製品を提供していきます。



〔上海東洋炭素の新工場完成予想図〕



## 新興国の市場に注目

▼今後、注目されている国・地域はどこでしょうか。

まず、中国は今後も非常に重要な市場になると考えています。当社は既に、中国政府が進める次世代原子炉の高温ガス炉向けに黒鉛を受注しており、今年の春には、中国の中核拠点である上海東洋炭素の新工場が竣工予定です。また、新たな市場という点で、中国以外の新興国などにも注目しています。例えば、ブラジルは経済成長が著しく、2016年には、オリンピックの開催も予定されています。また、半導体や航空などの産業も発達しており、当社にとってのビジネスチャンスが大いにあるものと考えています。また、インドや東南アジア諸国も魅力的な市場です。

## 環境・エネルギー分野に期待

▼今後、成長を期待する製品分野を教えてください。

環境・エネルギー分野が成長の目玉になると期待しています。具体的には、太陽電池や原子力、風力などの新エネルギー・再生可能エネルギー分野です。これまでも注力してきた分野ですが、今後、当社製品の需要がさらに高まっていくと考えています。

また、LED用を中心とする化合物半導体分野は、今後の飛躍的な成長が見込まれます。当社のコア製品である等方性黒鉛に加えて、さらに高機能な複合材製品の展開にも期待しています。



## 時代を先取りした独創的な 新製品・新規事業展開を推進

▼新製品の開発状況なども教えてください。

将来の製品化・事業化に向け基礎研究から応用研究段階の様々な技術を開発しています。たとえば、当社独自の製法による従来にない特性を有する多孔質炭素材料の開発があり、これは、環境・エネルギーなどの分野で応用できる次世代材料として注目されています。

さらに昨年、新しい半導体材料を製造する際の超高温材料としての活用が期待される炭化タンタル(TaC)に関する技術を関西学院大学より譲り受け、将来の事業化に向けた研究開発を進めています。

今後も、業界のパイオニアとして、異種材料や新規技術との複合化を図ることで、時代を先取りした独創的な新製品・新規事業展開を推進し、さらなる成長を目指します。

▼最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は創業以来、常にパイオニア精神を受け継ぎ発展してまいりました。これからも、その精神を忘れず、市場のニーズを捉え、全社一丸となって時代の一步先へとチャレンジしていきますので、株主の皆様方におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## ① 海外子会社において新工場建設が進む

東洋炭素グループでは、黒鉛製品のビジネス拡大に対応するため、各国の子会社でも新工場建設を進めています。中国では、上海東洋炭素が本年春頃の操業開始を目指し新工場を建設中で、太陽電池や次世代の原子力発電として注目される高温ガス炉向けの部材等、今後も需要増加が見込まれる高機能部材の加工能力強化を図っています。ドイツでは、GTD GRAPHIT TECHNOLOGIE GmbHが、昨年完成し移転した新工場を起点に、太陽電池、半導体、自動車等幅広い産業への展開を進めています。今後も経済情勢、業界動向等を見極めたうえで、ユーザーニーズの高度化、多様化に迅速に対応してまいります。



写真:ドイツ子会社の新工場

## ② 展示会への出展を通じ技術力や実績を世界にアピール

当社グループの技術力や実績を社外にアピールし、ビジネスチャンスへと結び付けるため、各国の展示会に積極的に出展しています。昨年9月に北海道札幌市で開催された第2回核融合／原子力国際ビジネスフォーラムでは、長年にわたる原子力分野への取り組みとその高い技術力を紹介しました。10月に台湾で開催された台湾国際太陽光発電フォーラム・展覧会(PV Taiwan 2009)では、台湾子会社の精工炭素が、太陽電池に関連する様々な製品の展示を行いました。これからも、展示会への積極的な出展を通じて当社グループの世界での存在感を高めてまいります。



写真:PV Taiwan 2009

## ③ 炭化タンタルに関する特許を関西学院大学から譲受

昨年11月18日、関西学院大学大阪梅田キャンパスにて、杉原左右一学長と当社近藤会長出席のもと、炭化タンタル(TaC)に関する特許の譲渡式が行われました。炭化タンタルは地球上の化合物の中で最も高い融点を持つ材料の一つで、様々な優れた特性を持っています。今回の特許譲受は、当社が従来から積極的に推進してきた産学連携の成果の一つで、今後この技術をさらに研究し発展させることで、新しい半導体材料にも応用される新機能を持った超高温材料の製品化が期待されます。



シリーズ



## LED編

夜の街を彩るイルミネーションや交通の安全を司る信号機等、多くの場面で照明光源として使用されているLED。実はこのLEDの製造工程でも当社の製品は重要な役割を果たしているのです。今回はこのLEDについてご紹介します。

LEDは、電気を流すと発光する半導体の一種で、白熱電球と比べると寿命は40倍、消費電力は10分の1と長寿命・省エネルギーである上、蛍光灯に含まれる水銀を含んでおらず環境にも優しい照明光源です。

1993年に青色LEDが開発され光の3原色である赤・緑・青のLEDが揃い、これらの色の組み合わせや補色関係を利用することで白色光を表現できるようになりました。この結果LEDの普及が進み、携帯電話やノートパソコンのバックライト等に使用されるようになりました。



▲(図1) サセプター

LEDは半導体と電気を流すための導線や光を反射させるためのリフレクター等で構成されています。LEDの性能を左右する半導体は基板上で化学反応を起こすことにより形成されてお



り、基板を支える台座として使用されるサセプター(図1)には、高い純度と熱に対する安定性、また導電性が求められることから黒鉛材が用いられています。とりわけ青色LED製造時は極めて過酷な状況となることから高い耐久性を備えた材質が要求されており、素材製造から加工・コーティングに至る一貫した高い技術が評価されている当社のSiCコーティング黒鉛材を材料としたサセプターが広く使用されています。

今後さらなる市場拡大が期待されていることから技術開発も積極的に行われており、量産化による低価格化が進展するとともに発光効率が向上する等技術レベルは日々進化しています。また、家庭用照明器具や大型液晶テレビのバックライトへの採用が本格化している他、屋内での植物育成時の照明光源や自動車のヘッドライトにも使用される等、新たな用途においても可能性は広がっています。

このように当社の高機能カーボンは、活躍が期待される製品の発展を影ながらしっかりと支えています。





## 連結業績概要

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、各国の経済政策の効果もあり、中国等のアジア諸国を中心に景気は一部持ち直しの動きが見られましたが、世界的不況の影響を引きずり引き続き低調に推移しました。国内経済も輸出および生産の下げ止まりや在庫調整の進展等により最悪期は脱しつつあるものの、依然として厳しい状況が続きました。

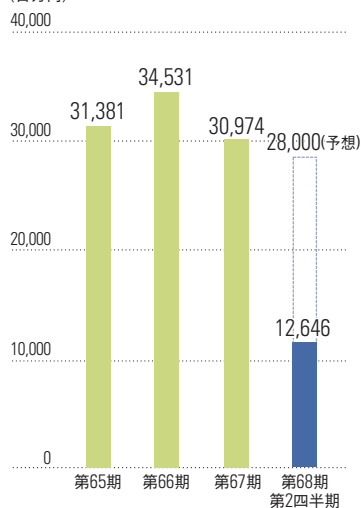
このような厳しい状況の中、当企業グループといたしましては、成長が見込まれる環境・エネルギー関連分野を中心に需要の掘り起こしに全力を注ぐとともに、コスト・経費削減や投資の圧縮等の自助努力を推進いたしました。

	ご参考		
	当第2四半期 (平成21年 6月 1日から 平成21年 11月 30日まで)	前第2四半期 (平成20年 6月 1日から 平成20年 11月 30日まで)	対前年 同期比(%)
売上高	12,646	17,979	△ 29.7
営業利益	817	4,154	△ 80.3
経常利益	661	3,754	△ 82.4
四半期純利益	369	2,379	△ 84.5

(単位:百万円)

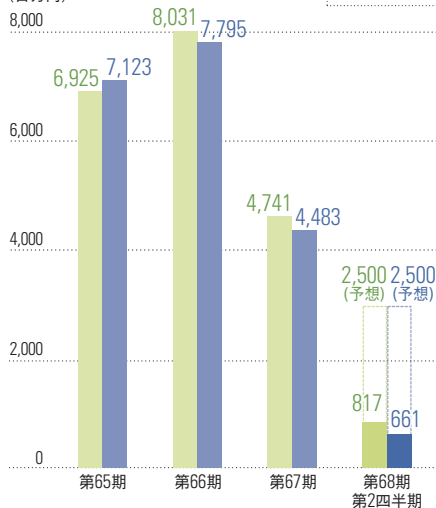
## 売上高

(百万円)



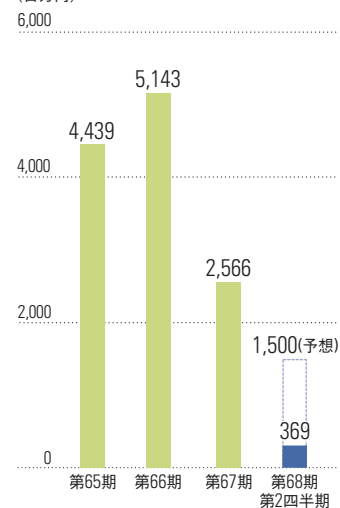
## 営業利益・経常利益

(百万円)



## 当期純利益

(百万円)



事業内容

主要製品

■ 特殊黒鉛製品

特殊黒鉛製品は主に等方性黒鉛材料を使用しています。エレクトロニクス分野では単結晶シリコン製造用、化合物半導体製造用、太陽電池製造用等に使用されており、一般産業分野では金属溶解等の冶金関連や各種工業炉向けの高温発熱体および炉内構造物、金型製造時の放電加工電極等に使用されています。このほか、原子力、宇宙航空、医療用分野等幅広い分野で使用されています。



ヒーター



るつぼ



封蓋用治具



連続铸造用ダイス



放電加工用電極



原子力用炉心材

■ 一般カーボン製品

主に従来の成形法で製造された炭素材料を使用しています。機械用カーボン分野では、一般産業機械用においてポンプやコンプレッサーの軸受け等の摺動部品、気体や液体のシール材として使用されており、輸送機器用において、鉄道のパンタグラフ用すり板として主に使用されています。電気用カーボン分野では掃除機や電動工具等の民生用途における小型カーボンブラシや、産業用途における大型カーボンブラシに使用されています。



ベアリング



パッキン



シールリング



パンタグラフ用すり板



大型ブラシ



小型ブラシ

■ 複合材その他製品

等方性黒鉛材料を基材に他の材質をコーティングした複合材料であるSiCコーティング黒鉛製品のほか、カーボンとカーボンファイバーとの複合材料であるC/Cコンポジット製品、天然黒鉛を原料とする黒鉛シート等を製造販売しています。



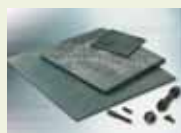
エピセプター



MOCVDセプター



工業用ガasketおよびシール材



C/Cコンポジット製品(2次元機タイプ)



C/Cコンポジット製品(るつぼ)



C/Cコンポジット製品(角型るつぼ)

## 事業概況

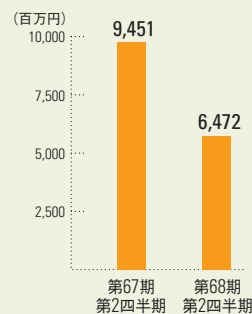
エレクトロニクス分野は、単結晶シリコン製造用が顧客の在庫調整の影響を受け引き続き低迷したことに加えて、太陽電池製造用も主力の中国および欧州市場の需要失調が響き、総じて低迷を余儀なくされました。しかしながらいずれも期後半には需要は上向きに転じつつあるとともに、LED向けを主とする化合物半導体製造用の需要が急拡大する等、全体としては緩やかながら回復基調にあります。一般産業分野では、主力の放電加工電極や冶金用ともに低調に推移したものの、景気底打ちを背景に特に期後半にかけて新興国を中心に需要は増加に転じました。

機械用カーボン分野は、景気の影響を受けにくいパンタグラフ用すり板は健闘したものの、設備投資の抑制を背景に主力の軸受け・シール材を中心に引き続き低調に推移いたしました。電気用カーボン分野は、世界的不況の影響を受け低迷していましたが、主力の小型モーター用が期後半には中国市場を中心にいち早く回復するとともに自動車用も上向きに転ずる等、総じて底堅く推移いたしました。

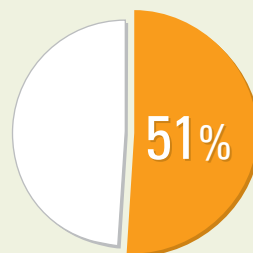
SiCコーティング黒鉛製品は、半導体関連が足を引っ張りましたが、LED関連がLCDバックライト用を牽引役に特に韓国・台湾を中心に大きく伸長し、全体としては底堅く推移いたしました。C/Cコンポジット製品においては、主力の単結晶製造用が顧客の在庫調整の影響を受け引き続き低迷したことに加えて、太陽電池用や工業炉用も振るわず総じて低調に推移いたしました。また黒鉛シート製品は、自動車用の急回復を主因に需要は増加に転じました。

## 売上高・売上高構成比

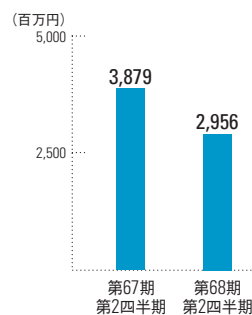
特殊黒鉛製品の売上高



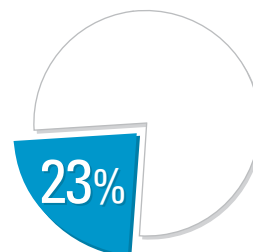
第68期第2四半期  
売上高構成比



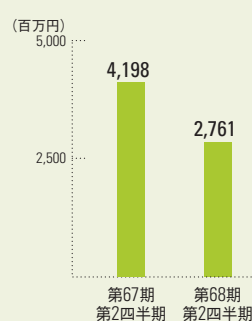
一般カーボン製品の売上高



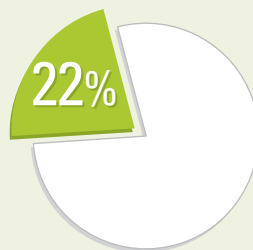
第68期第2四半期  
売上高構成比



複合材その他製品の売上高



第68期第2四半期  
売上高構成比



■ポイント解説

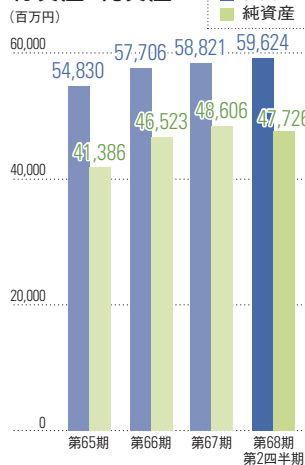
POINT① 資産

有形固定資産および無形固定資産の取得による支出等により現金及び預金が2,739百万円減少、中間在庫の計画的積み増し等によるたな卸資産769百万円の増加、詫間事業所における製造設備の増設等による有形固定資産2,599百万円の増加および中国上海における新たな土地(借地権)の取得等による無形固定資産481百万円の増加等により、資産合計は803百万円の増加。

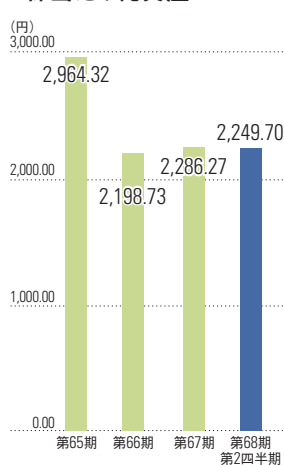
POINT② 負債及び純資産

設備関係支払手形243百万円の増加、製造設備の増設等にともなう有形固定資産の購入等による未払金503百万円の増加および有利子負債517百万円の増加等により負債合計は、前期末に比べ1,684百万円の増加。評価・換算差額等713百万円の減少等により、純資産合計は880百万円の減少。

総資産・純資産



1株当たり純資産(※)



四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当第2四半期末 (平成21年11月30日現在)	前期末 (平成21年5月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	31,352	33,608
固定資産	28,272	25,212
有形固定資産	25,807	23,208
無形固定資産	860	379
投資その他の資産	1,604	1,624
① 資産合計	59,624	58,821
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	9,960	9,148
固定負債	1,938	1,065
② 負債合計	11,898	10,214
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	47,981	48,027
評価・換算差額等	△1,335	△622
少数株主持分	1,080	1,202
② 純資産合計	47,726	48,606
負債純資産合計	59,624	58,821



# Consolidated Financial Statements

## 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成21年 6月 1日から 平成21年 11月30日まで)	前第2四半期 (平成20年 6月 1日から 平成20年 11月30日まで)
売上高	12,646	17,979
売上原価	9,079	10,683
売上総利益	3,566	7,296
販売費及び一般管理費	2,749	3,142
営業利益	817	4,154
営業外収益	154	172
営業外費用	310	572
経常利益	661	3,754
特別利益	127	8
特別損失	6	14
税金等調整前四半期純利益	782	3,747
法人税等	368	1,097
少数株主利益	43	270
四半期純利益	369	2,379

## ポイント解説

### POINT③ 損益

コスト・経費削減の効果はあったものの、主軸分野における需要低迷の影響を受け、売上高は5,333百万円の減少、営業利益3,337百万円の減少、経常利益3,092百万円の減少、四半期純利益は2,009百万円の減少。

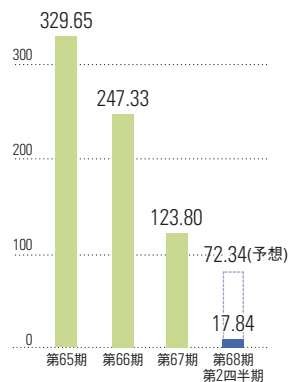
## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成21年 6月 1日から 平成21年 11月30日まで)	前第2四半期 (平成20年 6月 1日から 平成20年 11月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,703	4,384
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,349	△ 6,687
財務活動によるキャッシュ・フロー	48	△ 369
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 136	△ 49
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少額)	△ 1,734	△ 2,721
現金及び現金同等物の期首残高	6,412	10,491
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,678	7,770

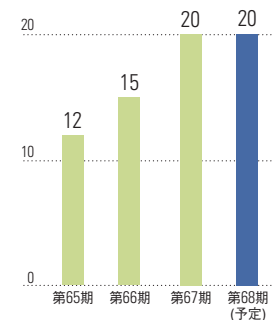
## 1株当たり当期純利益(※)

(円)  
400



## 1株当たり配当金(※)

(円)  
30



※第66期(平成19年6月1日)に1:1.5の株式分割を行っております。

### 全般に売上規模縮小なるも特にアジア地域のプレゼンス上昇 引き続き海外売上高比率は高水準 (56.9%)

世界に広がる  
東洋炭素のネットワーク

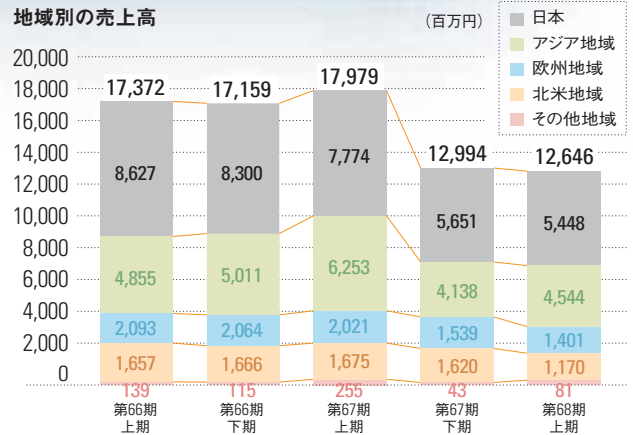
- 本社および海外拠点
- 海外代理店



事業拠点 (平成21年11月30日現在)

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 国内事業所</li> <li>本社・大阪営業所・海外営業部</li> <li>東京営業所</li> <li>東北営業所</li> <li>つくば営業所</li> <li>北陸営業所</li> <li>静岡営業所</li> <li>名古屋営業所</li> <li>広島営業所</li> <li>四国営業所</li> <li>九州営業所</li> <li>近藤照久記念東洋炭素総合開発センター</li> <li>東洋炭素生産技術センター</li> <li>詫間事業所</li> <li>萩原工場</li> <li>いわき工場</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 国内関係会社</li> <li>東炭化工株式会社</li> <li>大和田カーボン工業株式会社</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 海外関係会社</li> <li>TOYO TANSO USA, INC. (アメリカ)</li> <li>GTD GRAPHIT TECHNOLOGIE GmbH (ドイツ)</li> <li>TOYO TANSO EUROPE S.p.A. (イタリア)</li> <li>TOYO TANSO FRANCE S.A. (フランス)</li> <li>SHANGHAI TOYO TANSO CO., LTD. (中国)</li> <li>SHANGHAI YONGXIN TOYO TANSO CO., LTD. (中国)</li> <li>SHANGHAI TOYO TANSO INDUSTRIAL CO., LTD. (中国)</li> <li>JIAXIANG TOYO TANSO CO., LTD. (中国)</li> <li>TOYO TANSO TAIWAN CO., LTD. (台湾)</li> <li>TOYO TANSO KOREA CO., LTD. (韓国)</li> <li>TOYO TANSO (THAILAND) CO., LTD. (タイ)</li> </ul> |
|--|---|

地域別の売上高



## 株式の状況

(平成21年11月30日現在)

発行済株式の総数	20,750,688株
単元株式数	100株
株主数	9,512名

## 会社概要

(平成21年11月30日現在)

設立	昭和22年7月31日
本社	〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-10 梅田ダイビル10階
資本金	7,692,575,648円
従業員数	937名(単体) 1,983名(連結)

## 大株主

(平成21年11月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
近藤 純子	3,418	16.48
近藤 朋子	1,873	9.03
近藤 孝子	1,785	8.60
近藤 尚孝	1,527	7.36
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	925	4.46
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	900	4.34
財団法人近藤育英会	834	4.02
株式会社みずび銀行	360	1.73
株式会社三菱東京UFJ銀行	360	1.73
株式会社百十四銀行	336	1.62

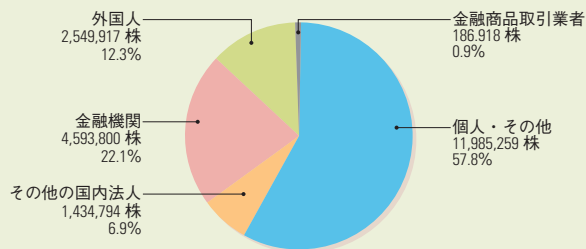
## 役員

(平成21年11月30日現在)

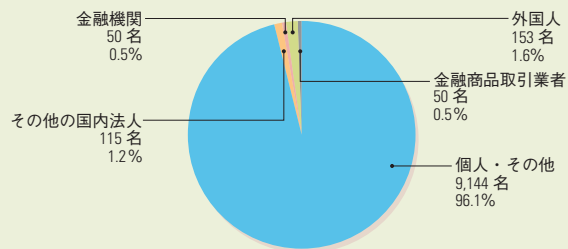
代表取締役会長	近藤 純子
代表取締役社長	近藤 尚孝
専務取締役	中原 全生
取締役	松本 強資
取締役	三木 相煥
常勤監査役	加藤 澄雄
監査役	福井 進吾
監査役	江戸 忠
監査役	田辺 陽一

(注) 監査役 福井進吾氏、江戸忠氏および田辺陽一氏は社外監査役です。

## 所有者別株式数分布状況



## 所有者別株主分布状況



平成21年11月30日現在

## 株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月
基準日	
定時株主総会	毎年5月31日
期末配当	毎年5月31日
中間配当	毎年11月30日
公告方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

電子公告掲載  
ホームページアドレス <http://www.toyotanso.co.jp>

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区北浜二丁目2番21号  
中央三井信託銀行株式会社 大阪支店

郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
(証券代行事務センター)

電話お問い合わせ先 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

上場証券取引市場 東京証券取引所市場第一部

証券コード 5310

### ■住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ■未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

## 当社WEBサイトのご案内



<http://www.toyotanso.co.jp>

当社では、インターネット上のホームページにて  
最新情報を随時提供しております。  
ぜひ一度ご覧ください。